



平和をつくる を仕事にする
～誰もがよい社会をつくるためにできることがある～

講演：鬼丸 昌也 氏
レポーター：赤堀 薫里

プロフィール

鬼丸 昌也(おにまるまさや)氏

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事・創設者

1979年、福岡県生まれ。立命館大学法学部卒。高校在学中にアリヤラトネ博士(サルボダヤ運動創始者/スリランカ)と出会い、『すべての人に未来をつくり出す能力がある』と教えられる。2001年、初めてカンボジアを訪れ、地雷被害の現状を知り、「すべての活動はまず『伝える』ことから」と講演活動を始め。同年10月、大学在学中に「全ての生命が安心して生活できる社会の実現」をめざす「テラ・ルネッサンス」設立。2002年、(社)日本青年会議所人間力大賞受賞。地雷、子ども兵や平和問題を伝える講演活動は、学校、企業、行政などで年100回以上。遠い国の話を身近に感じさせ、一人ひとりに未来をつくる能力があると訴えかける講演に共感が広がっている。

テラ・ルネッサンスは、子ども時代に兵士だった人たちが、きちんと自分たちで生活できるように文字の読み書き、勉強の仕方、お金の稼ぎ方といったものを教え、仕事ができるようにサポートしていく活動をアフリカの3つの国でやっています。



テラ・ルネッサンスが、子どもたちが兵士だった、元子ども兵を支援しているウガンダの北側では23年間戦争をしていました。戦争をしているグループのうちの一つが、子どもたちを誘拐して兵士にしていました。その数は3万6千人。僕たちは2004年に子ども兵の問題を初めて知り、子ども兵の問題に何かできないことがないのかと考えました。





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

まずやってみることは、問題を抱えた人や苦しみを抱えた人が、どんな人か知ろうとすること。簡単に言うと友達になることから始めてみようと思いました。そうしないと、子ども時代に兵士だった人たちが、何をしてほしいのか分からない。まず一番大事なことは、問題がなんであるのかしっかり調べていくことです。世界や社会の問題を解決することも同じことです。このような問題があるということを知ること、世界を変えるため、世界を良くするためにはとても大事なことです。

18才未満の子どもたちで、戦わされ、軍隊の中で命令されて動かされている子どもが、未だにこの世界に25万人います。これが今の世界の現実です。それでは、どうして子どもたちが兵士になるのか。

ひとつは子どもは素直なので、本人の意志とは関係なく麻薬やお酒で洗脳することができます。2つ目は武器が小さく軽くなったので子どもでも持てます。ちなみにウガンダでは、国連で確認された数字によると、5才から武器を持って戦わされていました。

子ども兵がいるということは、そこに戦争があります。そして、その戦争が起きる原因と僕たちの暮らしと関係があります。世界の中で、子ども兵がいる国はアフリカが多い。アフリカで戦争が多い理由は、スマホ、ゲーム機、パソコンなど、普段使っている電気で動く機械の中に入っている「レアメタル」や、採れる量が少なく一部の地域でしか採れない鉱物資源、金、プラチナ、ダイヤモンド、石油がいっぱい眠っているからです。

僕たちが便利な生活をするために、必要な物を作るための資源が、子ども兵が戦争をしている国にたくさん眠っています。この資源が欲しくて、世界中の人たちが戦争をしている国に武器やお金を持って行くことで、今も戦争が激しく続いています。日本から遠く離れたアフリカや、南米国、アジアと呼ばれるところの戦争と普段僕たちが生活していることは決して無関係ではありません。僕たちが使っているものや僕たちが買おうとしている物の中に戦争を激しく起こそうとしている物がちよつとずつ入っています。レアメタル、資源と呼ばれるものを使ってしまっている。

それでは僕たちは何ができるのか。それは簡単です。僕たちが買う物を変えたらいい。みんなが何かを買いたいと思った時に、買いたい物の中身にはどんな物が使われているのか、どういう人が作ってくれたのか、どんな会社の人で作って運んでくれたのか調べることができます。戦争と僕らの生活が無関係ではないからこそ、どんなものを買うのか、どんなところにお金を預けるのか。お金を投資するのか、寄付をするのか。お金の使い方をちょっと変えるだけで、実は世界にいる子ども兵の問題の解決や戦争を止めさせるために僕たちもインパクトを与えることができると考えています。

例えば、今世界では、この子ども兵を含めて3億人の子どもたちが無理矢理働かされています。本当は学校に行きたいのに、家が貧しいとか、誘拐されて兵士にさせられ、働かなくてはいけな



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

い。だから、僕たちは死ぬまで、「私たちは微力ではありますが、決して無力ではありません。微力と無力はまるで違います。」と言いたい。

ささやかなことかも知れません。自分の買う物や投資先を変えること。そのささやかなことをみんなが始めると、世界がきっと平和になっていきます。自分が何のためにお金を使うのか、お金の使い方を子どものうちにしっかり勉強して、自分のお金の使い方を自分で決めることができるようになってほしい。寄付をすることや困っている人を助けることで、自分の心が豊かになります。寄付をすること、例えば誰かを助けること。困っている人に手を差し伸べることはその人たちだけを助けるのではなくて自分の心が豊かになります。僕も誰かを助けるだけの力がある、誰かを支えるだけのそんな力を授けられているんだと自分を認める気持ちになることができます。寄付をすること、人を支えること。その大切なことを、ぜひみんなのような子どもの頃から、いっぱい知って経験してほしいなと思います。

講演では最後に、事実を知ることの大切さと、投資も寄付も、無理せずできることを少しずつ続けること、そして伝えることのお話いただきました。そして「とにかく語り続けること、言い続けること、私たちが社会をより良くしようとしている姿を見せ続けること。それが大人にできることだ」と熱く語られました。

(文責 FIWA)